



第33次 研究委嘱PTA 2年次研究実践中間報告書

# 「PTAの存続と これからの可能性」

軽井沢町立軽井沢西部小学校



# 概要

PTA活動は任意の入会。

「じぶんでかんがえ みんなでつくる」

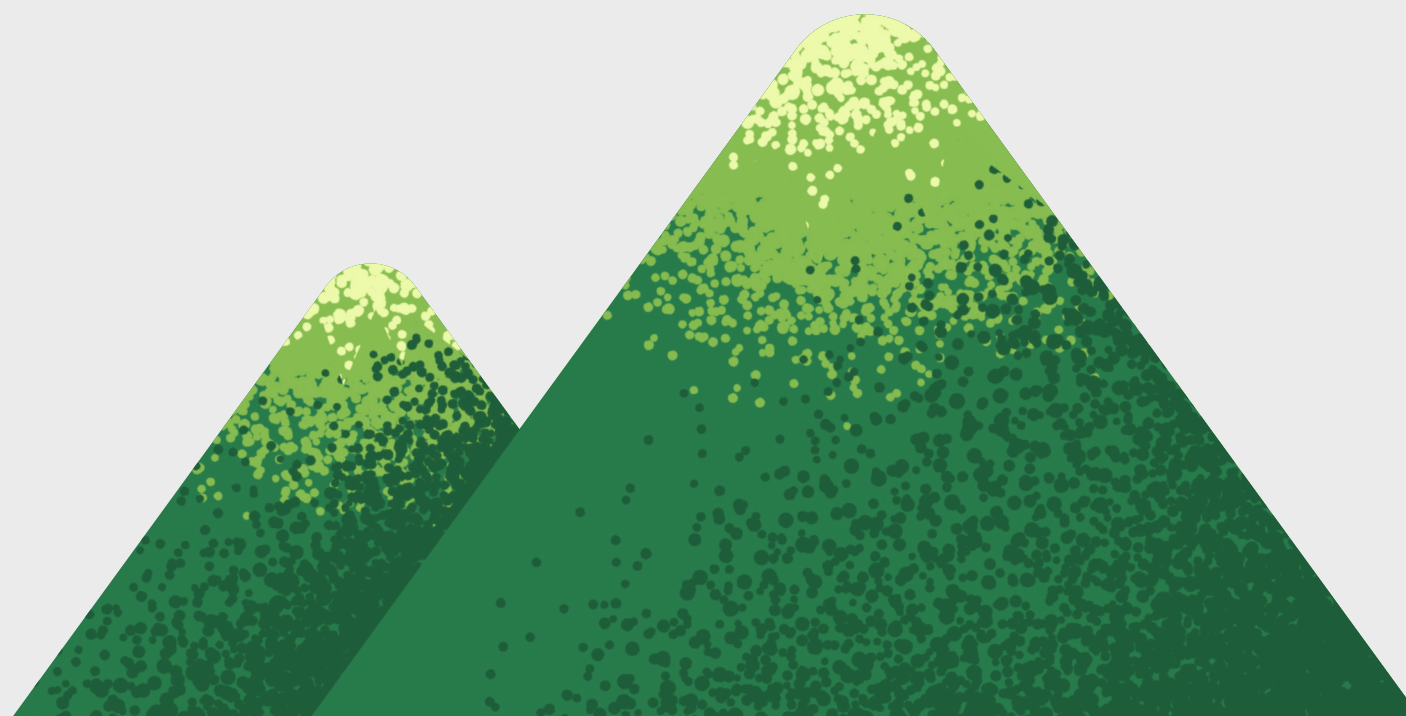




.令和5年度と6年度  
PTA入会アンケートを実施



# 八風山強歩登山



昭和39年に始まり、60年も続く歴史ある行事。

約26kmの道のりを歩きぬく。



# 行事が行われるまでの流れ

6月 ————— 7月 ————— 8月 ————— 9月 ————— 10月

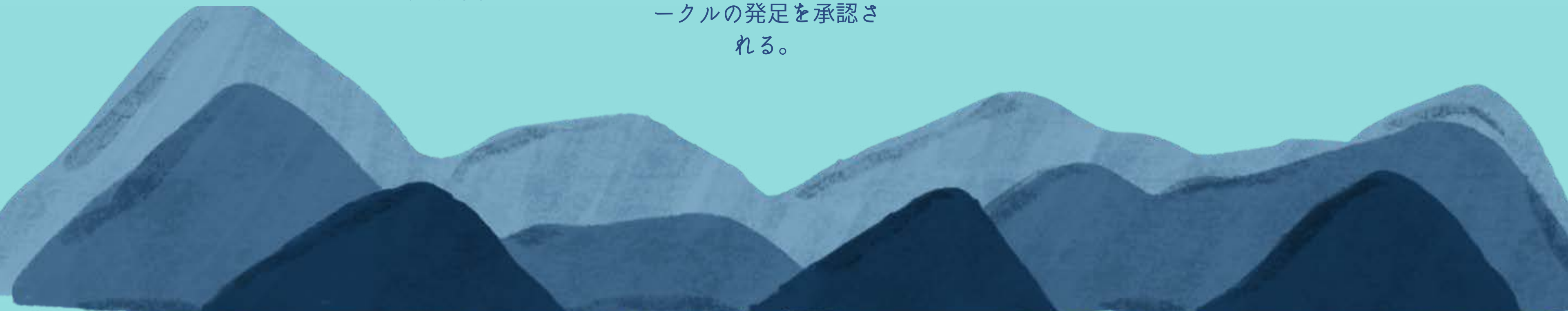
職員と保護者で今年度の行事の方向性、可能性についての話し合う。

ビデオレターを集めたり、保護者アンケートを取る。  
スライドを作成し、校長に提出する。

夏休み中に校長先生と希望者で、八風山頂上まで登る。  
関係者への挨拶回り。  
月末の総務会でPTAサークルの発足を承認される。

職員と保護者で仕事の分担。  
町に整備の協力を依頼。

保護者で事前に道路整備。







山頂下見

## 朝のマラソン練習



前日



PTAが一体となって取り組む



当日

# 防災についての学び

浅間山噴火時に備える



# 東日本大震災からの学び



# 浅間山の噴火史

浅間山は爆発的噴火を起こす日本を代表する活火山です。その山体は複雑な形成史をもつ複合火山で、黒斑山(安山岩の成層火山)、仏岩火山(溶岩流と小浅間溶岩円頂丘、デイサイト、約2万年前)、軽石流(デイサイト、約13,000年と約11,000年前)の順に生じ、数千年前から前掛火山が形成され、頂部の釜山は現在も活動中です。

有史後の活動はすべて山頂火で、釜山の山頂火口(長径東西約500m、短径約440m)の特に火口底の深さに、火山の活動が知られています。



約10万年～2万年前 2万年前

**黒斑山の時代**

図1: 浅間山の前身である黒斑火山が成長を続けていました。この火山は富士山に似た形で、標高は2,800メートル以上あったと推定されます。

図2: 2万数千年前、黒斑山の東半分が大規模な山体崩壊を起こし土石なだれとなって長野・群馬にすべり落ちました。この時発生した泥流は、群馬県側では中之条や前橋付近、長野県側では軽井沢方面や佐久平方面に厚く堆積しました。土石なだれで残った部分は、ギンノ山、火口は湯の平、天狗の露地と呼ばれています。



約2万年前～1万7千年前 約1万7千年～1万1千年前

**仏岩山の時代**

図3: 山体崩壊により馬蹄形のカルデラが形成され、その中に仏岩火山が形成されました。離山、小浅間が作られたのもこの時代です。

図4: 火砕流が何度も起き、とくに1万4千年前と1万1千年前の噴火では大規模な火砕流が発生し、南北両方向に30メートル以上の厚さで堆積しました。南方では小諸市から御代田町、佐久市にかけての山麓の広い領域を埋めつくしました。現在でもこの地域には、火砕流台地特有の箱形谷地形(田切とよばれる)がよく発達しており、小諸城址はこの火砕流台地の上に築かれています。



約1万年前～9000年前 西暦1108(天仁元)年

**前掛山の時代(天仁の噴火)**

図5: 仏岩火山の上から溶岩流や火砕流、火山灰が活動期・静穏期を繰り返しながら、数百年に1度の割合で大きな噴火が発生して、新しい山体である前掛山が形成されました。

図6: 大規模な噴火により、噴石、火山灰、追分火砕流、舞台溶岩流などが発生しました。10年間では最大に噴火であり、天明期が堆積しました。



西暦1783(天明3)年

**前掛山の時代(天明の噴火)**

図7: 大規模な噴火で噴石、火山灰、吾妻火砕流、鎌原土石なだれ、天明泥流、香掛泥流、鬼押出し溶岩流などが発生し、大災害になりました。

## 歴史時代の主な噴火災害

### 天明の噴火

天明の噴火は、1783(天明3)年5月9日<sup>※</sup>に始まってから、噴火したり収まったりを繰り返しながら、次第に活動が大きくなって行きました。7月27日<sup>※</sup>頃から噴煙が連続するようになり、8月4日<sup>※</sup>から5日<sup>※</sup>にかけて、最も激しい噴火が起こりました。(※新暦)



|        |                                        |
|--------|----------------------------------------|
| 発生した現象 | 火山灰、噴石、吾妻火砕流、鎌原土石なだれ、天明泥流、香掛泥流、鬼押出し溶岩流 |
| 主な被災地域 | 山麓の鎌原集落、軽井沢町、吾妻川沿いの地域、                 |
| 死者     | 1,400名以上                               |
| 倒壊家屋   | 1000棟以上                                |

### 天仁の噴火

1108(天仁元)年にも、浅間山は大噴火をおこしました。古い時代のことなので天明の噴火ほどの記録は残っていませんが、中御門右大臣藤原宗忠の書いた「中右記」に噴火の時の様子が記されています。



|        |                                                 |
|--------|-------------------------------------------------|
| 発生した現象 | 火山灰(前橋で20cm以上の厚さに積りました) 噴石 追分火砕流(約80km以上を覆いました) |
|--------|-------------------------------------------------|

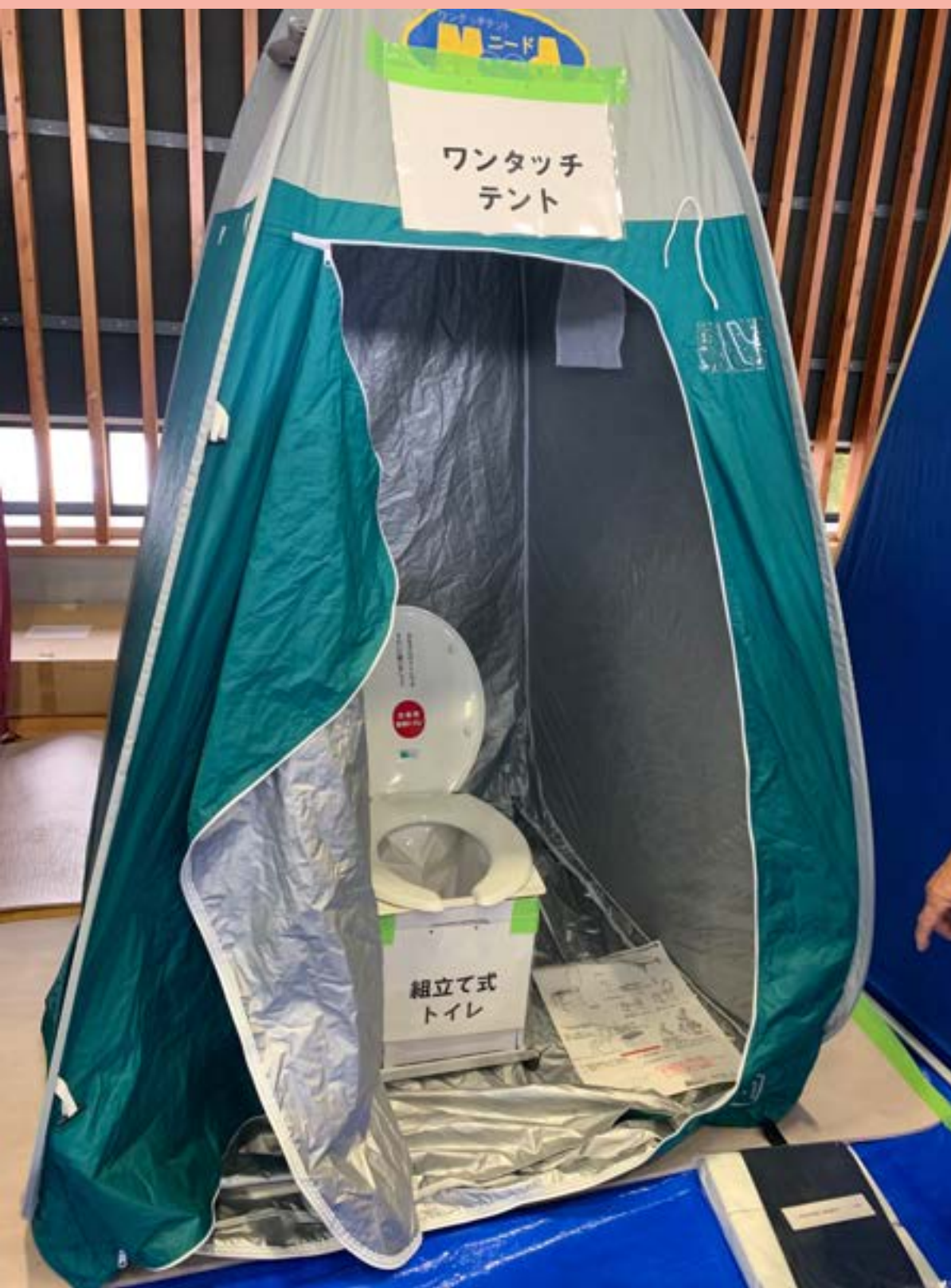
# 浅間山の麓に暮らしているという自覚



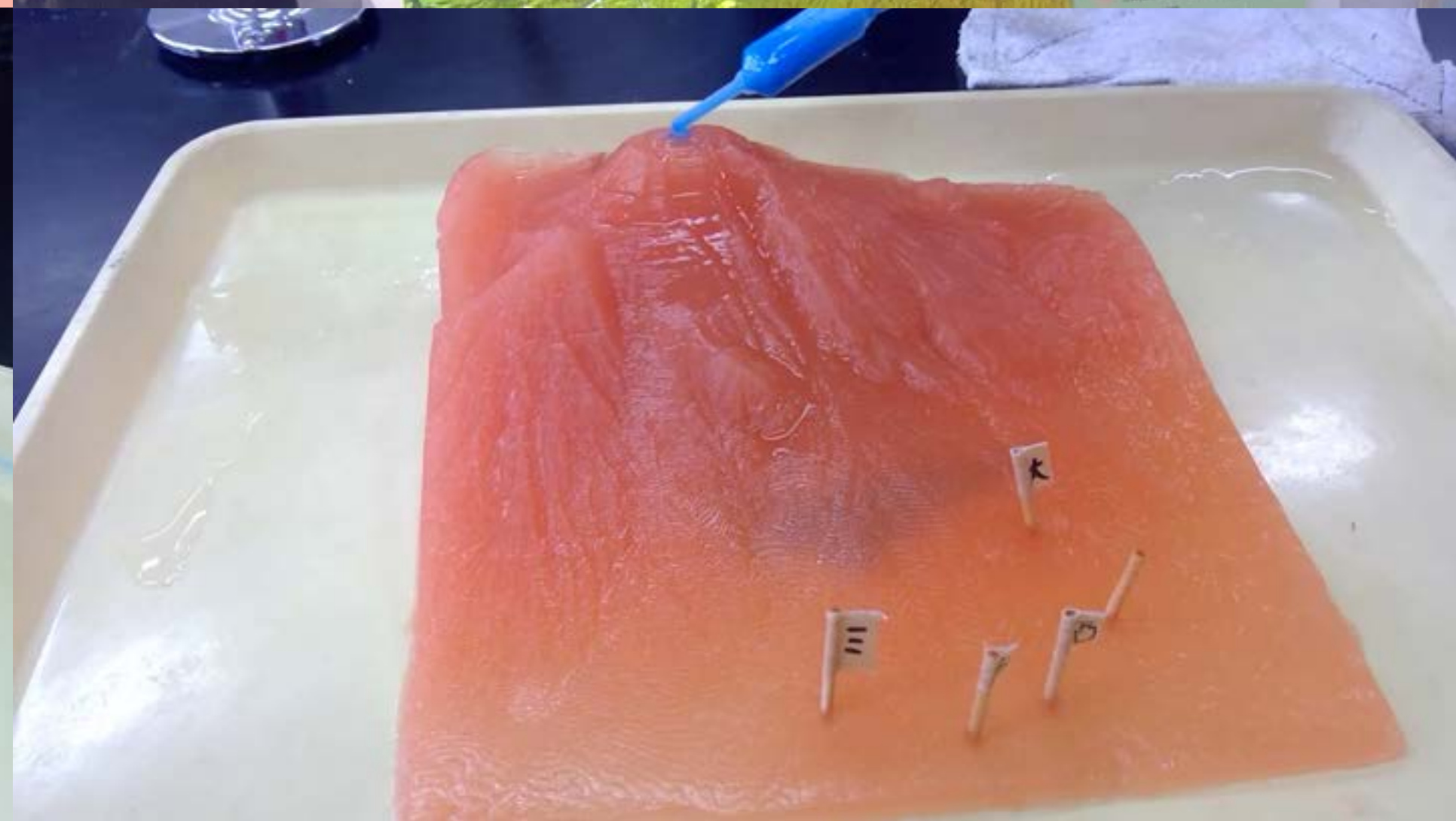
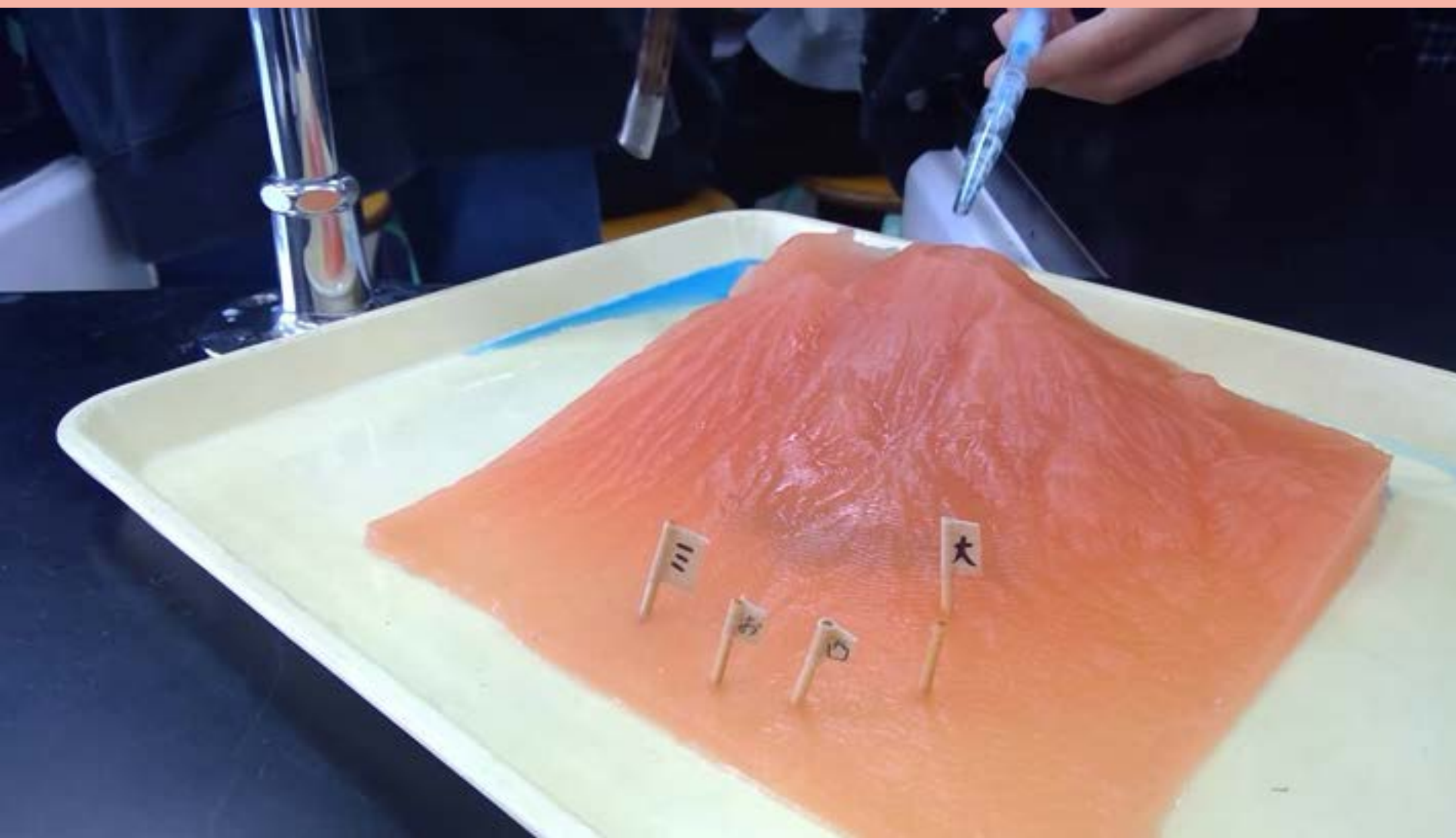
浅間山小噴火に伴う噴出物  
(平成21(2009)年2月2日)

火口付近にて採集  
(東京大学地震研究所提供)

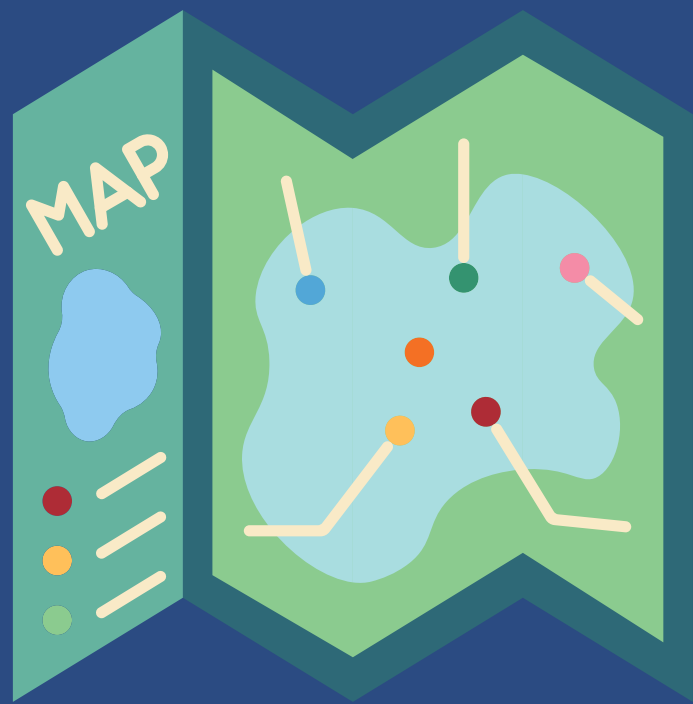
# 防災訓練体験



# ハザードマップの作成 模型を使っての実験



# 児童の学びから PTAへ発信



教科を越えての学び

地域に出て問題点を探る

児童からPTAへ



これからのPTA